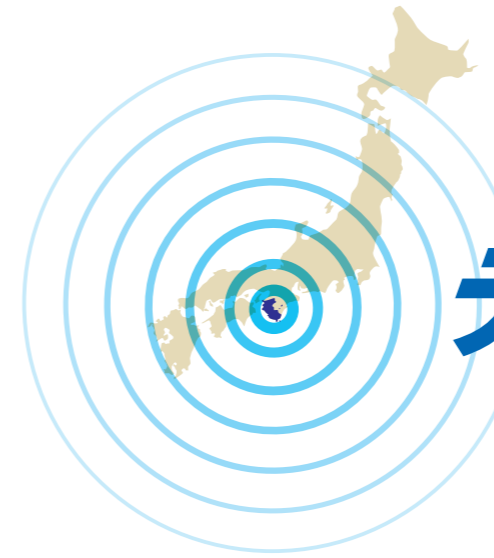


日本のデータ利活用 拠点をめざして



平成30年4月、総務省統計局と独立行政法人統計センターが所管する「統計データ利活用センター」が和歌山市内に開所しました。これは、政府が東京一極集中の是正などを目的として平成27年から取り組んでいる「政府関係機関の地方移転」の一環として実現したもので、中央省庁としては全国で初めての実現事例となりました。

近年、情報通信技術が飛躍的に向上し、これまで十分に分析・処理することが出来なかった膨大なデータ(ビッグデータ)の活用が各方面で進んでいます。そのような中、政府が保有する「統計マイクロデータ」の提供などの業務を行う統計データ利活用センターは、全国の研究者や自治体関係者から大きな注目を浴びています。

県では、統計データを集めるだけでなく、その統計データとヒアリングした情報などもあわせて分析を行うなど、統計の重要性に早くから着目してきましたが、このチャンスを最大限に活用するため、統計データ利活用センターに隣接して「和歌山県データ利活用推進センター」を設置しました。今後は統計データ利活用センターと連携してさまざまな分析・研究を行い、データを用いた県政の課題解決や県内産業の振興に取り組んで、日本のデータ利活用拠点となることをめざしていきます。

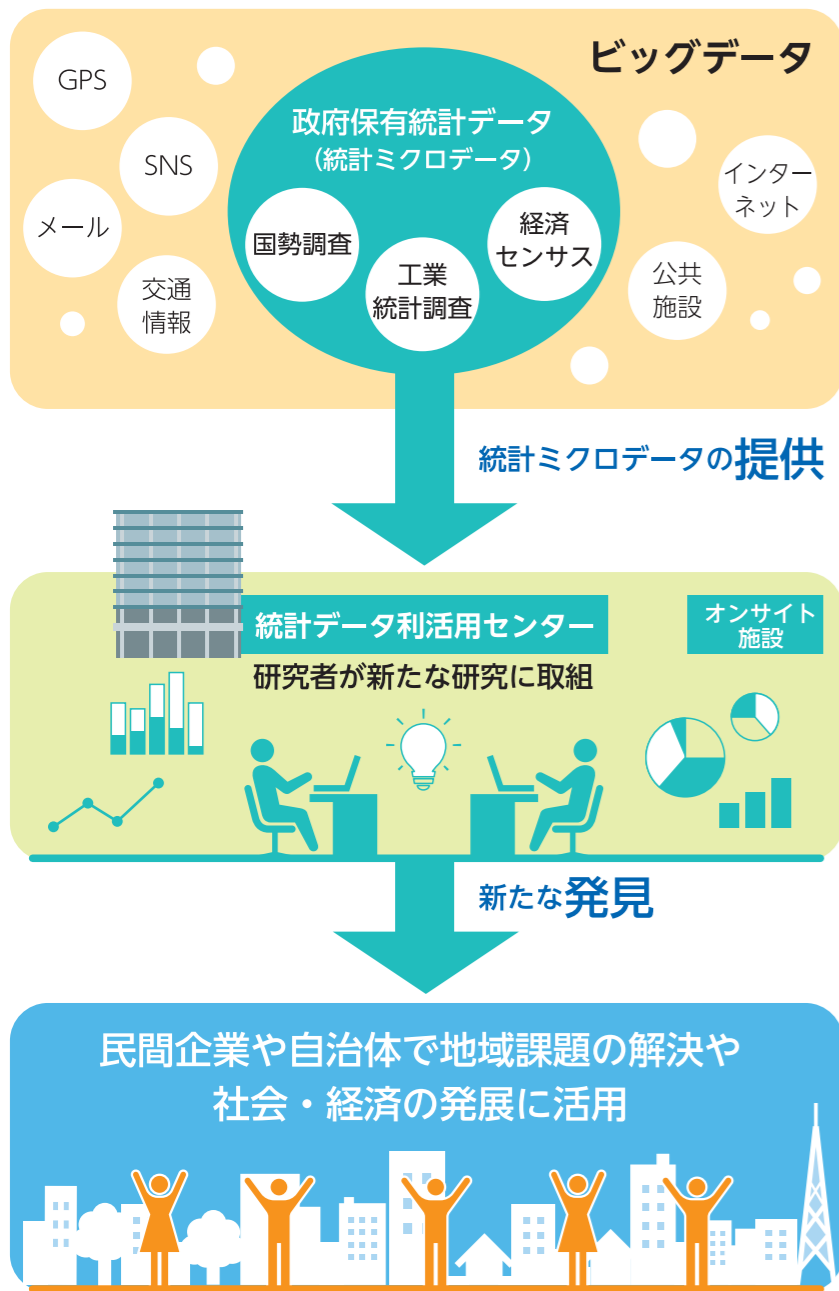
※統計マイクロデータは、統計法に基づき利用を認められた研究などにおいてのみ活用可能なデータです。

統計とは

統計は、世の中の姿や動きを正確に表し、私たちの暮らしを良くするための方向性を見極める基礎資料として、極めて重要な役割を果たしています。政府が統計法に基づいて実施する統計調査では、多くの世帯、事業所や企業に対して調査が行われ、年齢階層別・市町村別など一定のルールに基づいて整理された統計表が公表されています。統計法に基づき行われる統計調査には、国勢調査や工業統計調査など、約300を超える種類があります。

統計データの利活用

これまでに膨大な数の調査票情報(統計マイクロデータ)が収集・蓄積されてきましたが、政府が定めたルールに基づき整理された統計表が公開されているだけで、統計マイクロデータは十分に活用されてきませんでした。統計データ利活用センターでは、政府が保有する統計マイクロデータなどさまざまな統計データの利活用を推進し、地域課題の解決や社会・経済の発展につながるような新たな知見が見出されるよう取り組んでいます。



統計データ利活用センター

和歌山市東蔵前丁3-17
南海和歌山市駅ビル5階
☎073-425-0205



●主な取組

- ① 統計マイクロデータの提供
公益性の高い研究を行う研究者などに対して、統計マイクロデータを提供するための審査やデータの管理などを行います。
- ② 統計データ利活用の推進
地方公共団体における統計データを活用した課題解決の支援、データによる課題解決事例の研究など、統計データの利活用を推進します。
- ③ 人材育成
さまざまなデータから新たな知見を見出す能力を備えた人材を育成するため、全国の自治体職員やビジネスパーソンを対象とした研修会を実施します。

●オンライン施設とは

研究者が統計マイクロデータを利用するためには、高い情報セキュリティを確保することが必須条件となっています。統計データ利活用センターには、入退管理や監視カメラなどにより情報セキュリティを確保したオンライン施設が設置されており、研究者は施設内のパソコンを用いて統計マイクロデータを自由に分析することができます。

そのため、統計データ利活用センターには全国から多くの研究者が集い、先進的なデータ利活用の推進拠点となることが見込まれています。



運用管理室



オンサイト施設

インタビュー 統計データ利活用センター

谷道正太郎センター長



ICT(情報通信技術)の発達により、世の中には大量かつ多様なデータが生み出されており、また、そのデータを扱い分析するための環境も同時に発展しています。データから新たな価値を生み出すことが今日の社会経済の大きなテーマとなっており、私たちは、地域の課題などに対し、データを用いた解決のためのモデルを構築することをめざしています。統計データや都道府県が保有しているデータなどを組み合わせながら新しい発見につなげ、ひとつでも多くの良い事例を見出し、全国に発信していきたいと思っております。